

Captain ● Interview NO. 9



こんにちわ船長さん

アイランドスキッパー号

ギリシャ船（貨物船）

ジョージ エヌ バハス船長

きく人／玉奥 章 カメラ／浜岡 収

かつて哲学、芸術、政治、学問などのうえにすぐれた遺産を残したギリシャ。東京オリンピックの記憶の頁をたどれば、あのアカアカと燃えつづけた聖火も、遠くこの地から幾多の若人の手によりはろばると運ばれてきたものだった。幼い時から今にいたるまで、そうしてこれからもギリシャの神話と伝説に心をときめかしつづけるであろう私だが、その偉大な民族の後裔に今逢おうとしている。それは神戸港第五突堤に接岸している「アイラ

ンド・スキッパー号（Island Skipper）のキャプテン・G・N・バハス（Capt. George N. Bachas）その人である。

「ハウ・ドウ・ユー・ドウ」大きなガツシリとした手、力強い握手。茶色の腫がキラキラと輝やいてみるからに情熱的だ。広い額にスッキリとした鼻梁。その下に美髯がキリリと口許を引締めていた。スキッパー号は、今バンクーバーからの小麦の荷役にフル操業中だ。簡素

本キャブテンルームにその胎動が伝わってくる。部屋の壁にはバルテノン宮殿の写真の額がただ一つだけかかっており、装飾といえはこれだけである。暖房がよくきいて冬とは思えない。ボーイが運んできたコカコーラ、コーヒで私たちはそれぞれの好みによって喉をうるほす。

この間、バハス船長は荷役のことや、大阪からの来客で多忙をきわめていた。気取った制服姿でなくワイシャツとズボンだけだ。セコンド・エンジンが所用で部屋にはいつてくる。スズで真黒だ。人なつっこい笑顔と腫のキラめきはどうか、この国の人の独特のものかも知れない。「どうもお待たせしましたね。いやもういいのですよ。荷役をしていると時々こうなるのでね。私の年？ ウハハハ……。レデイの前だと困るね（スーツと腰をあけると私の耳に口をあてて小さく小さく）フォティフォ（44才）アンダスタン？ 若い？ ホーツアリガト。シーメンになったのはね、一九三九年ですよ。エエもう長いですよ。船長ですか？ 一九五七年ですからもう七年になりますね。本船はバンクーバーから神戸、八幡、門司、広畑、大阪へきてアメリカ東海岸をまわりメキシコ湾にはいます。このコースを四―五年ずつと廻っているんです。そうですね。ギリシャにはもう二年も帰っていません」

二年も故郷へ帰らないというのはたいへんなことだ。ネームカードをみると住所はニューヨークとなっている。遠く祖国を離れて働く彼らの逞しさには、先祖の血がやはり脈々と脈うっているのか。海運国ギリシャの面目躍如といったところである。

「来年には帰りますよ。子供？ 二人。男の子と女の子。男の子は八才。女の子はね、十四カ月のときに別れたきりでね（少しの間だまって）私のことは彼女知らないんですよ。ですからね、皆からパパはって聞かれると私の写真をもちだして「パパはこれよ」といつてるらしいよ。はやく逢いたいね（目をふせて追想にふける）ギリシャのお正月はどの家も開放して誰がたずねてきてもよいようにしてあるんですよ。お互いにハピーニューイヤーを

いいあって、飲んだり食べたりして親密なおつきあいをするので人間関係がとてよくてね。これはギリシャの伝統ですよ（明るい笑顔でキツパリと）いいでしょ」

ギリシャの船員は、航海にでると寄港地でそのほとんどが、ごく些細なものでも、父や母、姉、弟、妹、妻、こどもにへとおみやげを忘れないという。おみやげをもらって喜ぶ顔を見るのが唯一の楽しみだというキャブテンは、来年の帰国にはどのようなおみやげを考えているのだろう。親切な彼のことゆえ、さぞかし心憎いばかりのものを用意することであろう。

「エーゲ海の中にキオス（CHIOS）という島がありますが、私はこの島で生まれましてね。キオスは伝説の島で夏になるとヨーロッパからの観光客でいっぱいです。とても美しい島です。ホントに美しい（誇らしげである）女性のこと？ 女性はすべて永遠ですよ（すごく哲学的）神戸港？ オーナイス ポートノ 空気はいいし、風土もすばらしい。日本の港湾はいいね。その中でも神戸港は格別です。食べものじゃやはり神戸ステーキ。スキヤキ、てんぷらは残念ながらまだ食べてみたことはありません」

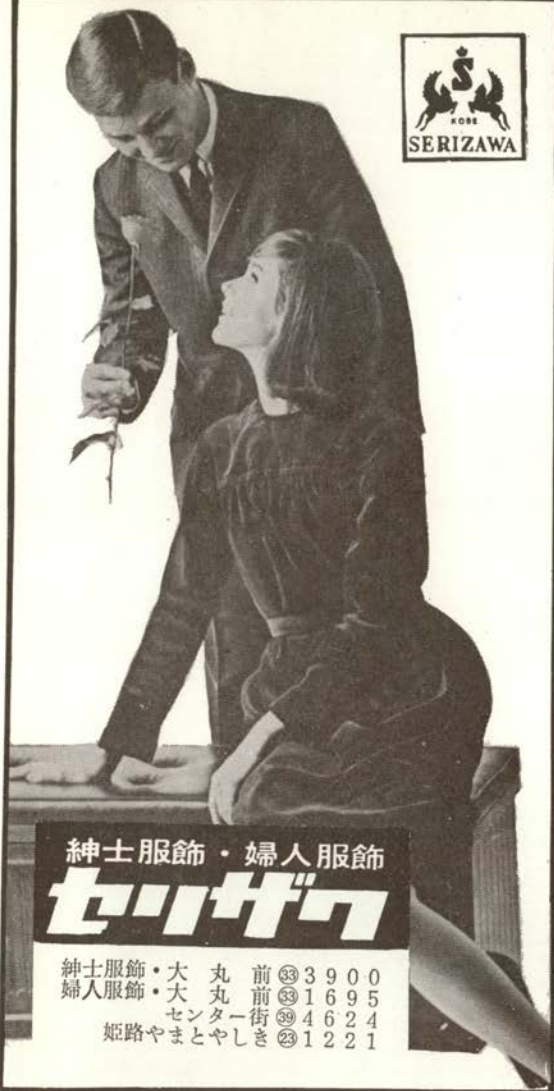
趣味は無趣味だとブツキラ棒にいつてその後でポツリと「航海だけだね、しいていうなれば」とすまし顔。スキツパー号は、一四、八〇〇トン、速力十六ノット、乗組員三十五名。

「私はキオスに生れそして育ちました。歴史からいっても、伝統からいっても、私のこの体の中には、船乗りになるという血が、もう遺伝として流れているのだね。海はすばらしいものだ」

海に魅せられ海に生き、またこれからもそれを自らの誇りにおもひ未来に夢を馳せるバハス船長は、わざわざタラップの下まで見送ってくれた。

「ご機嫌よう。私のお国流で、ヘアレツテノ、（HÉRETE）（親し中でのさようならの意）」

（提供 神戸銀行）



紳士服飾・婦人服飾

セリザワ

紳士服飾・大丸前 ③ 3 9 0 0
 婦人服飾・大丸前 ③ 1 6 9 5
 センター街 ③ 4 6 2 4
 姫路やまとやしき ③ 1 2 2 1

Akira Beauty Shop



美容室

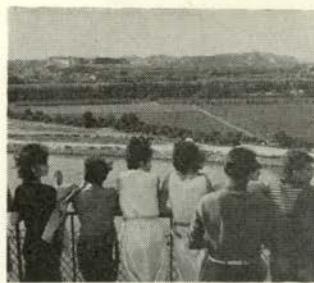
あきら

西野 明

電話予約制

三宮本通り TEL ③ 4461・6458

なんの家具もない部屋で、はだか電球の下のテーブルでパンをちぎり、ソーセージを切ってぶどう酒のびんを片手にぐいぐいやりながらの食事、こんなシーンをフランス映画で御覧になったことはないだろうか。あんなに飲んでしまふから庄助氏になり下ったと解釈するのは早計で、ぶどう酒のない食事は成り立たないというのが真相、これは子供の頃から、水わりのワインで鍛えられたフランス人のあたりまえの姿なのだ。



パリ通信 ⑥

アルコール天国 佐藤 昭年

も怪訝な表情をする。
飲んであた
りまえ、フ
ランスこそ
アルコール
党の天国、
あゝぶどう
酒と人生、
こんなシャ

ンソンが唱われる所以である。

秋のぶどうの収穫期ともなれば、その作、不作がテーブルの話題に上り、その実りが豊かであった年に醸成された、例えばボルドーの赤であれば一九一六年とか二四年のラベルのはられたものなど、これは左党には宝石のようなものだ。日常、家庭のテーブルに用意されるびんでも、その吟味は慎重であるし、食事に際して清潔なテーブル・クロスの上のグラスに注がれたワインは、ルビー色や琥珀色の影をおとし、はなやかさを添える。

家庭でアルコールを充分？亭主族・男族は与えられてゐるからかどうか不明だが、街ではごくまれにしか、泥酔氏にはお目にかかったことがないし、日本式バーには

出会えない。喉を潤す必要が生じたときには、喫茶店のカウンタで一息に飲みほして、いくらかの銀貨をおいてそくさと立去っていく人もあるし、BARの看板のある店でも、白い上着のギャルソンのサービスであるから、お値段の方でも酔の醒める思いをすることもない。

ぐつと気分をだして、シャンソンとか、モダン・ジャズを御所望のむきには、サンジェルマン・デ・プレやサン・ミッシェル界隈のカヴ(地下のナイト・クラブ)ならお気軽だし、何世紀も前に造られた穴倉の暗やみのなかでトランペットやドラムだけが金色に輝きを放ってしびれる様な演奏と共にグラスをかつむけることができる。華やかなショウを売りものの、シャンゼリゼのリッドでもシャンパンを遠慮すれば最低五十フラン(三七〇〇円位)でシートに座れるし、カンカンのムーラン・ルージュやシャンソンのラパン・アジュールあたりでも、これより少々お手軽というところ。左党に関しては、物価の方もこの国は寛容なのだ。

しかし、日常酒飯事ともいえる飲酒は、アルコールの過剰摂取となつて国民問題ともなっているらしく、パリのメトロには節酒を呼びかけるポスターが数多くはられ毎年二万人もの人々が、アルコールの犠牲になっているあなたも遅かれ早かれ云々というコピーで明日では遅すぎると訴えている。が、ぶどう酒の広告が圧倒的に多いポスター広告に於て、飲もうよ××のポスターの正面や隣り合せにはつたものをみては広告会社の当惑ぶりがかがえてユーモラスなことこの上ないし、更にその下でアルコールのお世話になつたルンペン氏が暖かい地下通路を昼寝場所にきめこみ、高いびきの図と重なつたら、真剣なP・Rも効果が半減してしまふ。

ラジオのダイヤルをまわせば、シャンソンは酒を歌うし古来よりアルコールこそ、なくてはならぬもの、やめられないものらしく世界いずこも……の御意見なれどやめられぬということであらうか。

(装飾美術部門留学生 在パリ)



MODE of KOBE

*灘五郷を訪ねて
早春のスーツと
アンサンブル
福富芳美

(神戸ドレスメーカー女学院々長 大丸顧問 デザイナー)

酒倉から清らかな酒の香がただよい、静かなたたずまいを見せる灘の里にも、明るい陽ざしが黒い板塀にはねかえって、春も近いと感じさせています。

六甲おろしの風はきびしいけれど、どこか暖かい海の香がする、そんな季節のスーツとアンサンブルをご紹介します。

いたしましょう。

*写真右のスーツ

細かいグリーンのかげ茶の落ちついたチェックで少し厚みのあるウール地を使用しました。何げないテララーカラーのスーツですが、こげ茶の共色ジャージでカラーと



ポケットを縁どって渋さをねらい、ポケットを上着のスカートに同じ感じでつけて若々しさを出したところがスーツのアクセントになっています。こういうちよっとしたところに手をいれて既製の服にない味合いを出すと、手づくりの仕立ての良さが出てくると思います。若い人のシックな装いをポイントにしたスーツです。

＊写真左のアンサンブル

白、茶、黒のグレンチェック地。真冬に着るアンサンブルですが、白が若々しいチェックを素直に、まっすぐつけて作りました。ドレスはごく短かい袖をつけてウエストにギャザーを入れただけのまっすぐなシルエツト。ジャケットは衿に流行をとり入れ、ふっくらとおれかえったデザインでたっぷり着易くしてあります。また、ジャケットは、ボタンを合わせると折目正しいアン

サンブルになりますし、ちょっとしたおよばれにも恥しくないアフタースーンドレスです。若い人の素直な、シンブルなおしゃれスタイルと言えそうですね。

◇写真のモデルは今中尚代さん(22才)。夙川高校を出て神戸ドレスメーカー女学院の四年生、デザイナー科で勉強中のお嬢さんです。「油絵を描くのが好き。デザイナーになるのが夢です」という優しさの中に情熱を秘めた神戸っ子。

◇1月号より初まったMODE of KOBE。モデルには神戸の女性にご登場いただいております。1月号の福富章子さんは国際基督教大学を卒業されたばかりの明るい神戸っ子。福富芳美先生のご長女でのびのびとさわやかなお嬢さんです。



木の芽が青み、花々のつぼみがほころぶ、ほの
ぼのとした春。

今月は、春を迎えてのキュートな魅力を表現
した髪型ボブ・スタイルをご紹介いたしまし
よう。

深いめに、丸味をもたせて前髪をおろし、
頬にかけた毛先がシャープな感じです。
この髪で、いちばん大切なのはカット。
毛先きに重みをつけたナチュラルなカッ
トで仕上げてあります。

スポーティな装いの時には、プレーン
な髪型のままで。ちょっと街までお買
物という時にはリボンの飾りだけで。
そしてパーティの時にはブローチで優
しさと華やかさをそえましょう。若々し
くキュートな髪は、あなたの春をいっそう
楽しくすることと思います。

● 2 月 の 髪

春のつぼみ

西 野 明

(美容室あきら)
ヘヤーデザイナー

カメラ／杉尾友士郎

春を呼ぶ若さがいっぱい



婦人帽子

マキシン

神戸・トアロード 東京・銀座3-2

TEL. 神戸(33)6711-3 TEL. 東京(535)5041



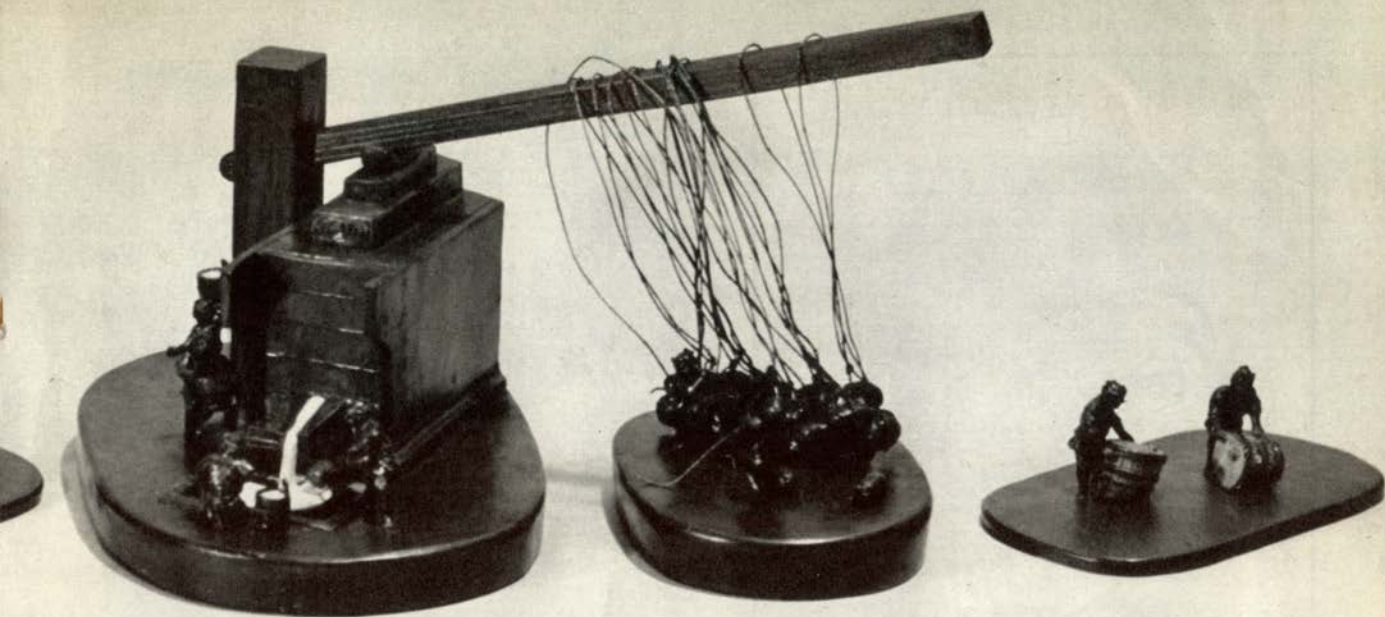
特選

ハンドバック

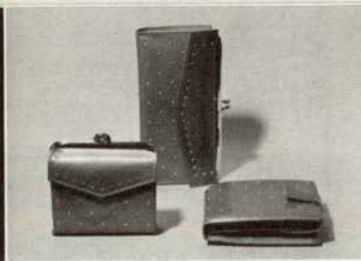
専門の店

シラサ

元町2 ㊼0813



—— 菊正宗提供の酒づくり人形 ——



FASHION ACCESSORY

AKIRA

三宮センター街 ㊟4895

舶来服飾

マルエス

元町通3丁目 ㊟6541

舶来雑貨とステッキの店

ステッキ オカダ

三宮生田筋 ㊟1198

男子洋品の店

フナキヤ

元町通3丁目 ㊟3617

るあがある
 がある
 酒があ
 銘が
 夢が
 ショッ
 むピン
 くら
 ふく
 夢も
 神灘
 戸は
 戸よ
 神よ
 夢よ



美しさを創る洋装店

装 苑

三宮店・三宮町1 ㊟2038
 六甲店・灘將軍通 ㊟1717

紳士洋品の店

サ カ エ

元町通2丁目 ㊟7885

あらゆる電気製品の店

元 町 電 機

元町通6丁目 ㊟3701~5

紳士シャツ

大和屋のシャツ

三宮センター街 ㊟6956



O-SHIBATA

金 柴田音吉洋服店

神戸・元町通4丁目 神戸 34-0693

大阪・高麗橋2丁目 大阪 231-2106

英. 仏. ドーメル社日本代理店 柴田商事KK



Variety of Life No. 12

● 暮らしのバラエティ

神戸の紳士服

長かった冬もようやく終りを告げ、街角には春の足音が聞えます。厚いオーバーをぬぎ捨てて、軽やかな背広姿の神戸っ子紳士がさっそうとゆく季節。

神戸の紳士はおしゃれ上手だという定評がありますがそれはやはり神戸が横浜とならんで紳士服のメッカであること、長い歴史と伝統の中にしっかりと根をおろして育てられてきたセンスの良さなどを考え合わせると至極当然のことかもしれません。

今月は、神戸で伝統をほこる老舗「柴田音吉洋服店」(元町通4丁目浜側)をお訪ねし、店主柴田高明氏に紳士服のおはなしを伺いました。

＊洪さで着る英国調紳士服

現在の店主は3代目ですが、明治16年に創業開始したのは高明氏の曾祖父にあたる柴田音吉氏です。古いお得意さんの間では商標のマルキンで通っています。本場英国へ渡って、みっちり勉強してきたカッター(裁断師)をかかえて、純英国風のあざやかなカッティングと縫製技術で創業以来83年間、ただひたすらに紳士服をつくってきたお店です。店主も3代目ならお得意様も3代目、人力車で注文取りや仮縫に走り廻った時代から、世の中は大きく変わりました。初代店主のとき、ある皇族の方がお誂らえになったのですが、その仮縫を、お体に指一本ふれず、見ただけで仕立てたというエピソードが残っていて、柴田氏の技術の高さがうかがえます。

さて、若い人むきなら、フランス調やイタリア調の軽快な紳士服が好まれるようですが、中年以上の紳士にはやはり渋い英国風がびったりです。中年またはそれ以上の紳士には、年令からくる落ち着きと恰幅の良さが自然に備わってくるものですが、そこにロンドン調紳士服の品格ある「洪さ」が加われば一段と魅力的なわけです。

英国調とは一口に言って「洪さ」と「粋」を着こなすものと言えましょう。流行におぼれず、流行に遅れず、やや保守的で堅実なデザインが多いようです。流行と言っても婦人の服飾界ほどめまぐるしいことはありません。

んが、それでも近年は流行の5年循環説が説えられていくように、いくぶん流行のくり返しが速くなってきたのは事実です。紳士服の場合、特に襟巾、肩巾、上着丈、ウエストのしぼり具合などが流行のポイントになります。近頃ズボンの巾がぐんと細身になったのは大きな変化だと言えましょう。

* 着やすい洋服

洋服の良し悪しはその裁断の仕方によって決まります。上手なカッティングの服はたいへん着やすく、これが一番大切なことなのです。次に服地ですが、何も舶来ものだからと言って良いとは限りません。舶来ものにもピンからキリまであるということを知って、慎重に選ぶことです。しかし、毛織物は昔から

英国産が王座を保っていて、その品質の良さ、感触のすばらしさ、寿命の長いことなどの利点があげられましょう。紳士服の手入れは、こまめにブラシをかけることで外出から帰ると上着、ズボン共ていねいにブラシをかけますと、意外に小さなゴミやホコリを吸い込んでいるものです。また服は決して折りたたんではいけません。必ずハンガーにつるすよう心がけて下さい。毛織物は生きもののなので、大切に可愛がることをお忘れなく。

* 理想的な衣生活とは……

同店では年に約20着も誂らえる人がいるとか、でもこういう衣裳道楽な人は別として、これからの日本の紳士も最低限①ビジネス・スーツ ②スポーツ・スーツ ③夜のスーツの三種類のスーツを整えて、時と場所に応じた着こなしをしてほしいものです。欧米ではビジネスとビジネス外とはっきり区別して着る習慣が生活にとけ

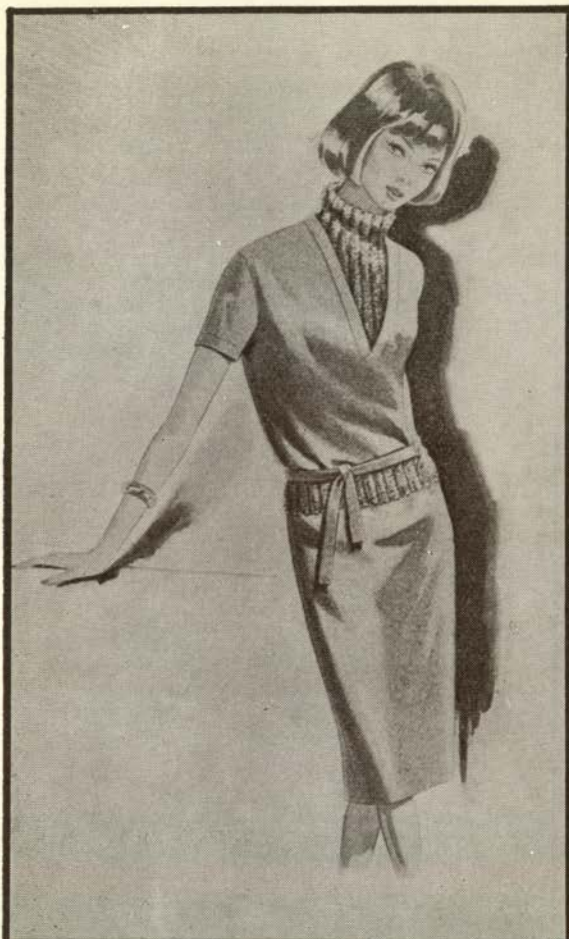
込んでいるようですが、日本ではまだもう一步というところで。ビジネス・スーツは仕事着としておとなしいダークな色でつくりましょう。スポーツ・スーツというのはサンデースーツとも言いますが、いわゆるレジャー用の上下でラフな感じの色合や柄を楽しまれるといいでしょう。夜のスーツは、ちょっとしたレセプションとかパーティにおでかけのときのものです。これはダブルボタンでもシングルでもいいのですが、色は濃紺(ネイビー・ブルー)またはミッド・ナイト・ブルー(電灯の下では黒に、太陽光線にあてると濃紺にみえるしゃれた色)が常識とされています。

* 世界的水準にある神戸の紳士服



神戸
の一流洋
服店で仕立
てた洋服を
着てアメリ

カを訪れたある神戸っ子紳士が「英国でつくった洋服だろ」と言われたという話があります。それほどに、神戸の紳士服のすばらしさは世界中の人々の認めるところとなっています。世界的な水準にあるといつて過言ではないでしょう。外国人がわざわざ神戸まで洋服を仕立てにやってくるという時代がやってきました。紳士は神戸で生まれる……神戸っ子の私たちにとってこれは大きな誇りだと言えるでしょう。



美しさを創る...

アスター・ニュートン

トア・ロード 331818



PELO TIES
WEST GERMANY

元町バザー

神戸×元町 TEL 331401

ボン・パリ



何から何まで
渋好みのパリッ子

ボン・パリは洋菓子の
本場フランスの味です
ブドーと洋酒を上品に、
ミックスした風味あるお
菓子です



アルモンド

本店 神戸市生田区元町通2の43
直売所 神戸大丸・新聞会館秀品店
本店TEL ㉓2203



神戸っ子の
ハイセンスが
光る
クロスの靴



靴の専門店 クロス

神戸 トア・ロード TEL ㉓ 0998

代表 ㉓ 1781

大阪 阪神百貨店 TEL (361) 1201

るぼるたーじゅ・コウベ

⑦

ジャンジャン市場

松原新一 撮影／緒方しげを



市場デ」と書かれた看板がかかっている。安くて腹いっぱい食べられる。それが昔も今も変わらぬジャンジャン市場の魅力といえよう。

足を踏み入れたとたん、異様な臭気が鼻をつく。酒の臭い、ホルモン焼きの臭い、小便の臭い、それらがまざりあって生まれるすえたような、一種名状しがたい異臭がたちこめている。「小便スルナ」と大書してある板べいに向けて、通行人がいかわりたちかわり放尿していく。だから、

道端はいつもびしょびしょだ。とがめる者はだれもない。ある老詩人いわく。「ここで一杯ひっかけたあと、夜空を仰ぎながら立ちしよんべんするときの気分。最高にいいですなあ」と。ともかく、この土地に深くしみこんだ特有の臭いは、ジャンジャン市場の盛える限り、消えることはなさそうだ。

ジャンジャン市場がもつとも賑わいをみせるのは、なんととっても朝である。ほとんどの店が午前5時開店。朝食を求めて集まる日雇労働者の群れでこったがえすのである。彼らのほとんどが、港で働く沖仲仕だ。長靴を

三宮のそごう百貨店の西向いの路地をはいる。センタ―街入口附近のちやうど北側の一角にあたるところ。「ここが名代のジャンジャン市場」である。略してジャン市という。敗戦直後のあの食糧難の時代に、ここへくれば不思議にジャンジャンものが食えた。それが名称の由来とされているが、一説にはここでジャンジャン儲かるからだともいわれる。

めし屋、飲み屋、天ぷら屋、ホルモン料理屋などが、ところ狭しと密集している光景は、ちょっとした壮観だ。トタン造りの壁に「御食事ハ安イ安イジャンジャン

はいた男。よれよれのオーバーのポケットに両手をつこんだまま、町角につつ立っている老人。たき火を囲んで話し込んでいる若い労働者たち。ボサボサの頭髮に、ひげづらの男たち。單車が爆音をたてて人混みの隙間をぬって走り去る。

迷路のようにいりくんだ細い道。突きてた庇に頭がつかえそうになる。キャベツやネギをいれた箱や漬物だるが、道端に雑然と並んでいる。

どのめし屋も満員だ。ガラス戸一枚で道路とへだてられた店内に、湯気がたちのぼっているのがみえる。凍てつくような冬の朝だが、なんとなく暖かい雰囲気があったよう。みんなめしを食らい、みそ汁をすすするのに余念がない。ジャンジャン市場の朝は、労働者たちが一日の活動のエネルギーをしゃにむにたくわえる時である。

8時頃になるとさすがにひっそりとしてくる。労働者たちがいなくなると、時おりサラリーマンやB・Gが足ばやにここを通りぬけていく姿がみられるだけになる。そして、仕事にあぶれたらしい労働者たち数人が、すぐ北側にズラリと並ぶパチンコ店の前で、寒そうに体をゆすりながらたむろしはじめる……。

夜。ふたたびジャンジャン市場は、朝とはまた別の賑わいのなかにはいる。仕事を終えた労働者が、憩いを求めてここへくるのはいうまでもないが、同時にまた、一般のサラリーマンの楽しみの場所ともなっている。ともかく安くてすむのである。ジャン市で千円も使えば、これは相当の散財である。

あるジャン市ファンの弁によれば、ここでいちばんうまいのは天ぷらだそう。一流料理屋の使い残りの油が、ジャン市で使われているのだという。「天ぷらを食べて、焼酎でくっ一杯やる。ジャン市の味はこれにつきる」と彼はいうのである。女性に人気があるのは、さざえのつぼ焼きだ。公衆便所の傍で、屋台のうす暗い灯を囲みながら、つぼ焼きをすすっている女性の姿も多い。ついでに言っておくと、ジャン市のトイレには

「女性優先」の札がはってある。レディファーストここに生きる、というわけか。つぼ焼きの屋台の傍で、たばこに火をつけようとしたら、横から声がかかった。「すんまへん。わしにも一本たばこよんでえな」るんべん、スタイルの男でだいぶ酔っている。酒臭い息を無遠慮にふきかけてくる。「すんまへんなあ」うまそうにビールをふかすと、「わしみたいたるんべんには、だれも酒飲ましてくれしまへんや」たかれそうだから、そのまま立ち去ろうとすると「あ。警察のだんなやな。ネクタイ見たらわかる！」

◆ ◆ ◆

終戦直後、駅前にはたいいどこでも、ごちゃごちゃした飲食街ができた。大阪梅田駅周辺もその一例だし、神戸のジャンジャン市場も、三宮駅前という地の利をえて栄えてきた。雑ばくなゴミ箱みたいな場所に、自然に生まれてきた飲み食い市場といえよう。食糧の厳しい統制時代だった。が、ジャン市にはともかく食うものがあった。牛やブタのモツが食えた。立派な西洋料理を出す店もあり、そこではティールシチュウが50円くらいで食べられた。統制品以外の物資が、ここで人々の食欲をみたした。なかには、進駐軍の残飯もあった。これは進駐軍に勤務していた日本人から、コックがせしめてくるのである。

コーヒー屋もあった。今の国際会館のあたりにアメリカ軍のイーストキャンプがあったが、その飲み残しのコーヒーを拾ってきて日本人に飲ませた。飲食物の出所など、だれも気にとめはしなかった。だれもがすき腹をかかえて苦しんでいた時代である。

メチルアルコールのはいつた焼酎がはやった。人々はこれをバクダンと呼んだ。これを飲んで死んだり、失明の憂き目にあった者も多い。蛇足ながら、その頃アイデアルというウイスキーがあった。これは戦後わが国ではじめてできたウイスキーで、これをラッパ飲みして御陀仏した黒人もいた。

どぶろくがこの名物であつた。どんぶりばち一杯で30円だつた。どぶろくに唐辛子をかけて飲む豪の者もいた。どぶろくのかめを土中に埋める商人がいた。その商人は店の裏にブタをかつていた。ブタの臭いで、どぶろくの臭いを消そうというたくらみだつた。こういう乱世に生きる者は、いろんな智慧を生み出すものだ。たとえは家の柱を中空にして、そこに米を隠した。警察の経済係の追求の目をくらますためである。



った。手配師が乗りこんできて、彼らを片っぱしからトラックに積みこんでいった。仕事はアンコ以外なものもなかった。いずれにせよ、ジャン市は一種の治外法権的な場所だったといえるだろう。路地にごろつと倒れている者がいても、だれも見向きもしない。倒れているのは死者であつて、路傍の死者にばかりあつているひまは、だれにもないからだった。たばこ屋など、どこにもなかったが、そこへ行けばなんでも手にはいるという雑貨屋も、ジャン市にはあつた。とまれ、ここには無関心、欲望、狡智、生命などが、ごたごたといりまじり、そこに奇妙な野性のエネルギーがうずまいていたようだ。



写真右は、つば焼の屋台。
上は、ジャン市の路地。

だが、ジャンジャン市場は、たんに下層の人々のたまり場所だったわけではない。神戸の知識階級もまた、この名代のはきだめをこよなく愛した。たとえば、本誌「紳士入門」でおなじみの竹田洋太郎氏は、次のようにいう。

「ジャンジャン市場というと、人々はなんとなく無気味な感じをもつでしょう。事実、ちよつと無気味な所があり、恐い所にはちがいないんだが、それを承知でよく行ったものです。どぶを飲んで、ホルモン焼きを食べるのが楽しみでね。ところが、これをやると独特の臭いが体じゅうにしみこんでしまう。翌日、社へ出ると、ハハンゆんべジャン市に行ったな、ということがすぐにバレるんだよ。ジャン市全体に汗とアカの臭いが充満していた。ネクタイなんかしめていたら、とても行けたものではなかったな。みんな出所不明の酒を飲んでいたわけだが、私などなんべんへどを吐いたかわからない。昔の立派な酒を飲んでいて経験のある先輩に、まず毒見の意味で匂いをかいでもらってね。これは大丈夫だ」という保証をしてもらってから飲んだものです。しかしよく死ななかつたものと、今にして感慨がわきますよ。

ジャン市という所は変なところだね。なんとなく世をはかなんだようなおばさんが店をやっている、そこへ行くと上等のウイスキーが置いてあったりした。

県庁の課長クラスの面々も、よくジャン市に来ていたようですね。みな、それぞれ自分の行きつけの店をもっていて、そこへ一人で行くんだな。この、一人であるのがいいんだね。私なんかは、天ぶらの専門店て肉のすじか、いもを食って、焼酎をぐつと飲んでさつと帰るのが好きだった。今、あちこちの会社で重役などしている連中で、ジャン市に思い出をもっている人は少なくないでしょう。ここへくれば、うるさい人間関係や会社の組織からのがれられる、そういう心の安らぎがあったからでしょうね。私も上役にどなられた日には、きまつてジャン市に行ったものですよ。」

ここで、ジャン市小町ことおてるさんのエピソードについても触れておこう。昭和26年頃のことだ。親娘ではじめたある飲み屋さんが、大へん評判になった。おてるさんという娘さんが、なかなかの美人だった。ある人は女優の原節子さんに似ているといい、ある人はまた、はきだめに鶴とよんだ。その清楚な美しさが魅力だった。劇団民芸から入団のすすめもあったほどだ。

おてるさんが目当てで、われもわれもとお客さんが押しかけた。ふだん、弁証法的唯物論がどうで、唯物論的弁証法がどうなっているというような高級な議論にふけていた連中も「おてるさん、おてるさん」とくち走りはじめた。彼女の顔をみながら、関東煮をさかなに二級酒を飲んだ。ある商店のおやじさんは、自分の店を閉めたあと、風呂あがりここで一杯という習慣をつくった。靴みがきのオッサンもやってきた。そして、神戸ではどういう所で靴みがきをすればいちばん儲かるかについて、おてるさんに熱心に講釈した。せっせと映画の招待券をみつぐ男もいた。だれが最初に、この鶴を口説きおとすかということで、みんな競争した。彼らのほとんどが戦中派であった。おてるさんと他愛のないムダ話に興じながら、苦い心で彼らは「第二の青春」を、せいっぱい生きようとしていたのかもしれない。ちなみに、おてるさんは先年、ある歯医者さんと結婚したという。

◆ ◆ ◆ ◆ ◆

ジャンジャン市場は、まだ生きている。だが、ジャン市はもうその役目を果たし終わったと見る向きもある。戦後の混乱の時代が終わった現在、ジャン市に代わる世界が他にいくつもできてしまった。すでに一部はとりこわしにかかっている所もある。ほとんどの店が土地の不法占拠だといわれている。富を貯えた店主が、他へ移っていった例もある。市の都市計画局の話では立ちのきを目指して、円満解決するべく地元と話し合いをすすめているという。歴史的使命を終えたジャンジャン市場は、これからどのように変貌していくのであろうか。



イタリア料理

イ タ リ ア

生田新道 TEL ㊥0376

神戸肉の鉄板グリル

バター焼・鉄板焼

定食・¥650ヨリ

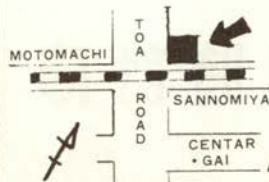


Grill & Tea Room

バター焼
喫茶

candle

きやんどる



☎ ㊥9 9991
9508

TOA・ROAD
SANNOMIYA

AM11:00~AM1:00

Kienzle

Made in Germany



特約店



美田時計店

神戸・元町3丁目
TEL 33-1798・8798



レストラン
コラルキタノ
Tel: (93) 2251



S.I.